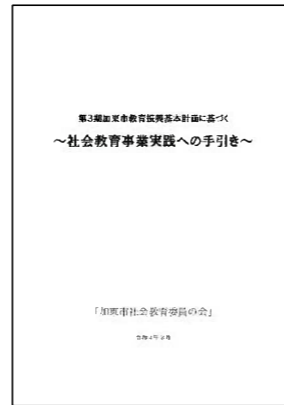


# 加東市の社会教育の充実に向けて(案)

## ◇本市における生涯学習の推進

本市では、「第3期加東市教育振興基本計画」(以下「基本計画」という。)の中で、「人生100年時代の到来を見すえた生涯学習の推進」を基本方針として掲げ、人生100年時代を見すえ、すべての人が自らの人生を設計し、学び続け、学んだことを生かして活躍できる生涯学習社会を実現するため、ライフステージに応じた多様な学習機会を提供するとともに、市民の自主的な人権学習を支援するなど、人権教育・啓発を推進することとしています。また、市民の文化芸術活動やスポーツ・レクリエーション活動の支援、地域の文化財の保護、加古川流域滝野歴史民俗資料館や三草藩武家屋敷旧尾崎家の活用、市民の学びの要求や暮らしを高める図書館サービスの展開により、社会教育の充実を図るとしています。

そこで、社会教育の充実に向けての取り組みとして、令和4年3月に「加東市社会教育委員の会」において、社会教育に関わる考え方や内容等に基づいた手引き書を作成しました。



## 『第3期加東市教育振興基本計画に基づく～社会教育事業実践への手引き～』

## ◇社会教育と生涯学習

社会教育とは、学校教育を除き、「主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)」(社会教育法第2条)を指し、定義されています。

社会教育の対象は、少年から老人までを、そのレベルは日常的、基礎的なものから高度なものまでを、方法は、一人で本を読んだり、テレビの教育番組を見たりする個人学習から、友人と討論したり、グループでスポーツを楽しんだりというような集会・集団学習までを、また、内容は知的な面から体育・文化活動までをそれぞれ含むものとして、広く解釈する必要があります。

これに対して、「生涯学習」は、学習者の視点から捉えたもので、社会教育における学習のほか、学校教育や家庭教育における学習、組織的に行わない個人的な学習も含む点で、社会教育より広い活動を対象とする概念です。つまり、生涯学習とは、人々の生涯にわたる学習活動のことを指しています。これに対して、社会教育とは、社会における教育機能、つまり人々の学習に対する教育的な働きかけであり、学習者である人々の自発性を尊重しながら、人々の学習を「教育的に高める活動」であるという特徴をもっています。

また、領域の面からみると、生涯学習は学校・家庭・地域社会を含めた社会のあらゆる分野にわたっているのに対して、社会教育は学校教育・家庭教育と並ぶ一つの分野であるという特徴があります。

## ◇『第3期加東市教育振興基本計画に基づく

## ～社会教育事業実践への手引き～』について

本市では、健康寿命の延長を支える気力や行動力を鼓舞するため生涯学習プログラムの編成を工夫しています。その工夫の一つとして、学習者や指導者・行政等が事業を実施するにあたって共通理解を図るための、有効なツールにしようと考えて作成したのが『第3期加東市教育振興基本計画に基づく～社会教育事業実践への手引き～』です。以下には、手引き書のおおまかな構成を記載しています。事業実践の際には、手引き書を熟読してください。

### I 手引き書作成のねらい【手引き書P.1～】

教育の振興を図るための施策に関する基本的な計画として、生涯にわたる『人間力の育成』を掲げた、「基本計画」を策定し、その中では、生涯学習を編成する、学校教育及び社会教育を含む教育施策に関する基本的な考え方や方向性が示されています。それらに基づいて、社会教育のねらいとそれに携わる学習者や指導者・行政等が各事業の実施について、社会教育のねらいとそれを支える事業の目標を共通理解し、より充実した事業実践にするための手引きになることへの期待を込めて、手引き書を作成しました。

### II 社会教育のねらいと、それを支える事業の目標【手引き書P.3～】

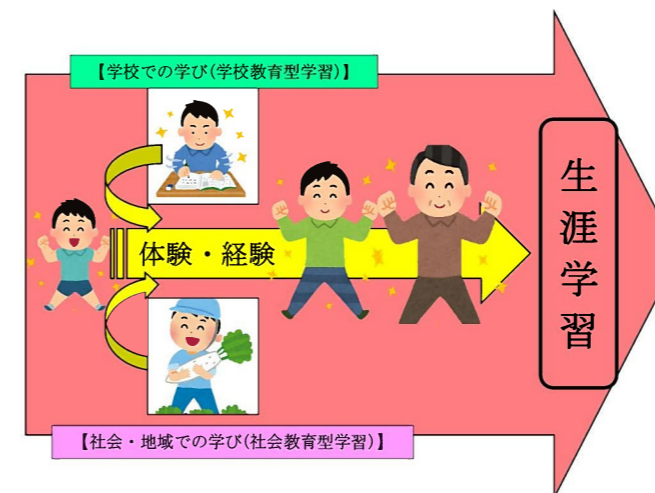
この項では、総合的な「人間力」を構成する要素を確認しながら、学校教育と社会教育の違いを踏まえて、社会教育のねらい・目標について記載しています。

#### 1. 「人間力」を構成する要素【手引き書P.4】

総合的な「人間力」については、下記の要素で構成される総合的な力と捉えられています。

- ㊸ 知的能力的要素 (知識力、習得した知識の応用による思考力・創造力など)
- ㊹ 社会・対人関係力的要素 (コミュニケーションスキル、リーダーシップ・フォローアップ等の他者と関わる術など)
- ㊺ 自己統制的要素 (自分らしい目的やそれに繋がる目標達成に向けて、計画を着実に実行する生き方の実践など)

#### 2. 「人間力」の育成に関わる、学校教育と社会教育の役割【手引き書P.4～】



#### 人間力の育成に関わる学校教育と社会教育の役割(概念図)【図1(P.5)】

生涯学習は生涯にわたるあらゆる学習を指しています。また、学校での学び(学校教育型学習)と社会・地域での学び(社会教育型学習)に分けられています。

「人間力」の育成に関わる、学校教育と社会教育の役割の詳細については、手引き書P.4～6に記載しています。

### 3. 社会教育の「機能」と「特徴」【手引き書 P. 6～】

#### (1) 社会教育のねらい【手引き書 P. 7】

社会教育の「機能」とは、社会教育のねらいであり、そのねらいは、『人づくり』『絆づくり』『地域づくり』であることを示しています。それぞれのねらいについての詳細は、手引き書の P. 7 に記載しています。

#### (2) 社会教育事業の指導目標づくりで、留意する事項【手引き書 P. 7～】

社会教育の「特徴」は、確かな社会教育の実践を図るために、指導目標づくりで留意する5つの事項を記しています。

##### 1) 社会教育の「確かな事業実践」を図るための留意事項【手引き書 P. 8.9】

5つの留意事項は下記のとおりです。詳細は手引きに記載しています。

- 留意事項1 『自発性と自主性が基本』
- 留意事項2 『実践的、体験的な活動が主軸』
- 留意事項3 『社会教育の場は、学習者同士の相互教育による展開が中心』
- 留意事項4 『自由、柔軟で、多様』
- 留意事項5 『生活や地域を重視』

##### 2) 留意事項のつながりが示唆する、留意点【手引き書 P. 9～】

「確かな事業実践」を図るためには、留意事項1～5を個々に活用するのではなく、実践の場でできるだけ容易に活用できるような工夫として、2つの留意点【A】、【B】としてまとめています。2つの留意点については、P. 10 に詳細を記載しています。また、P. 13、P. 14 にはそれぞれ図として記載しています。

- 【A】 事業における、意欲的な学習の継続を保证するための留意点
- 【B】 生涯にわたる、学習の継続を保证するための留意点

### III 事業の指導目標づくりにおける、留意点活用の実際【手引き書 P. 11～】

#### 1. 留意点活用の手順に沿った、指導目標づくりで配慮するポイント

「確かな事業実践」を図るためには、留意点【A】を活用する手順は、各種事業実践で共通して使われ、また【B】を活用する手順は、年間プログラム作成に臨んで共通して使われる必要があります。各種事業で“共通使用”できるようにするための手立てについて、図2と図3において、「配慮ポイント」として提示しています。【手引き書 P. 13 図2、P. 14 図3】

#### 2. 実践における、留意点活用の実際【手引き書 P. 15～】

この項では、社会教育の「確かな事業実践」を図るために、図2「指導目標づくりで配慮するポイント①～⑧」に対応した、指導者の具体的サポートについて確認しています。具体的サポートの記載は、目標づくり、内容づくり、方法づくりに区分して進めており、具体的サポートごとに、その評価を併せて説明しています。

手引き書では、便宜的に「技能の習熟」「仲間づくり」をそれぞれ目標にしている事業を例にして説明を進めています。なお、「2. 実践における、留意点活用の実際」では、全般にわたって「快さ・充実感の体験」と密接に関連するため、手引き書末尾資料(P. 52)を熟読後に、読み進めてください。

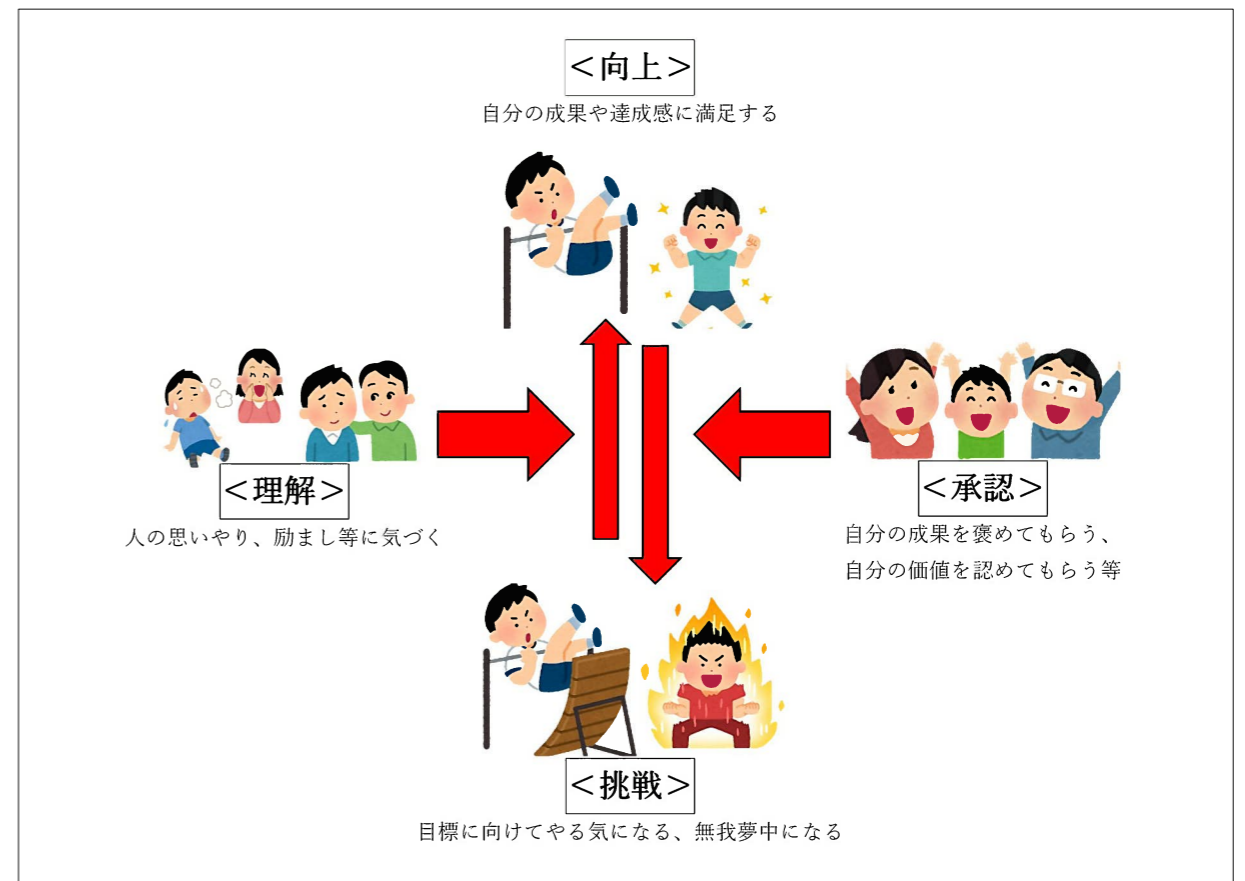
(1) 『スポーツ』における技能の習熟を目標にした事業の場合【手引き書 P. 16～】

(2) 「仲間づくり」を目標にした事業の場合【手引き書 P. 32～】

### 《資料》【手引き書 P. 52～】

#### ・【日常生活で、体験できる「快さ・充実感」】

手引き書で用いる「快さ・充実感」は、喜び・嬉しさ・幸せ・成就・達成・親和等々の動機による心や体の“こちよさ”を総称した表現です。これらの動機は便宜的に4種に大別することができます。それぞれは、「挑戦」「向上」「理解」「承認」と称され、それぞれを体験する意義を反映している名称です(P. 53 資料編図1 参照)。手引き書 P. 53 からは、4種の各動機による「快さ・充実感」体験とその意義について説明しています。



#### 資料編【図1】快さ・充実感

快さ・充実感とは、「挑戦」、「向上」、「理解」、「承認」の4つの体験によって得ることができる。目標に向けてやる気になったり、無我夢中になったりする「挑戦」の過程で得られる楽しさ。挑戦することで、目標を達成し、自分の成果や達成感に満足することで、次の目標に向けてさらに頑張ろうという気持ちになる「向上」の楽しさ。これら2つは、個人で得られる快さ・充実感である。また、「挑戦」「向上」の過程で、周りの人から、気遣ってもらったり、励ましてもらったりすることで得られる「理解」や自分の成果を褒めてもらったり、価値を認めてもらったりすることで得られる「承認」により得られる快さ・充実感もある。

#### ◆「社会教育事業実践への手引き」に関するお問い合わせ◆

加東市教育委員会生涯学習課（社公民館）

※休館日：月曜日・祝日（祝日が月曜日の場合は翌日）

TEL：0795-43-0545（生涯学習課） 0795-42-2600（社公民館）

MAIL：shogai-gakushu@city.kato.lg.jp